

子育て市民との対話でできたマップ

市民ワークショップ実施

市民ワークショップやいっしょに真愛保育園での保護者ワークショップを実施しました。

「サービスが知られていない」「子どもと出かける場所が欲しい」「人と人とのつながりが必要」など、多くの課題が出ました。



子育ての悩みをどこまで相談しているの？



課題整理・試作版作成

市民アンケート・改善

子育てサービスマップ完成！

- ・全ての妊婦へ母子健康手帳とともに配付
- ・福津市へ転入するかに配付
- ・市内公共施設で配付
- ・市公式ホームページに掲載



令和3年度
キッズデザイン
賞受賞



制作・協力：福津市子育てプロジェクト（敬称略）
平井康之、中島梨沙、村岡詩織、平野由記、下村萌、土肥真維華、宮本あかり、岩下恵都、大塚真浩

デザインこだわりポイント

1 子どもの月齢に合わせたマップ

子どもの月齢に合わせて、今使えるサービスや必要なことが分かります。子育て中の市民全員に関係する情報と、必要な人だけ使う情報の場所を分け、見やすくしました。

2 市民起点で考えるデザイン

「文字が多くて見づらい」「イラストより写真の方が実際の雰囲気分かる」といったワークショップでの気づきをもとにデザインを変え、より使いやすいものにしました。

3 保護者が共感しやすいデザイン

赤ちゃんのイラストは自分の子どもと重ねてストレスを感じる可能性があるため、クマや困った表情の保護者のイラストなどを用いて、共感しやすいデザインにしました。



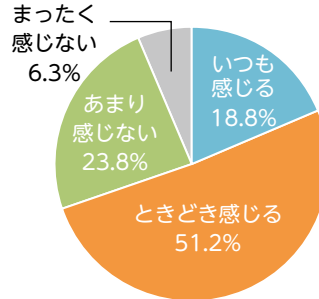
特集 子育てサービスマップ

保護者に寄り添う子育て支援

市にはさまざまな子育て支援制度があります。令和8年4月からは子ども・子育て支援金が子育て支援事業に充てられています。そんな市の子育て支援情報を1枚にまとめた「福津市こどもの国 子育てサービスマップ」は、九州大学大学院芸術工学研究院と共同で制作し、令和3年から配布を開始しました。「子育ては一人じゃない」というメッセージを込めた、子育てを支えるマップを紹介します。

問い合わせ 市子育て世代包括支援課（市こども家庭センター）☎0940・34・3352

子育てをしていて悩みや不安をどの程度感じていますか



（出典：文部科学省）

「初めての子育てで、そもそも誰に頼ればいいのか分からない」「近くに相談できる人がいない」。そんな悩みはあります。令和6年度の文部科学省の調査では、子育てで悩みや不安を感じる保護者の割合は約70%でした。そのうち、悩みの解消法がない人は約12%、支援は欲しいがどのような支援が必要か分からないと感じている人は約15%も存在します。

市では、子どもや子育てに関するさまざまな支援を行っています。ですが、支援があっても「知らない」「初めは一人じゃない」という声があるのも現状です。

保護者の約70%が
子育てに悩みや不安

子育ては一人じゃないというメッセージ

子育てサービスマップは、市民中心の子育て支援サービス充実のため、平成30年に企画を開始し、市民の皆さんの気づきを取り入れるワークショップやアンケートなどを行いました。フィンランドのアールト大学の助言のもと、九州大学大学院芸術工学研究院と共同で実現に取り組み、令和3年に配布を開始しました。

特に必要な情報を集約して分かりやすく届けるだけでなく「困ったときは市に頼っていい」「子育ては一人じゃない」というメッセージを込め、子育て中の保護者の気持ちに寄り添うことを大切にして作成したマップです。

そこで令和3年に、妊娠から子育て期まで利用できる支援や施設、相談窓口などをまとめた「福津市こどもの国 子育てサービスマップ」を制作しました。

行政サービスをデザインする

子育てサービスマップをはじめとする福津市の子育てサービスのデザインを手掛けた九州大学名誉教授の平井康之さんに、子育てサービスマップ作成の経緯やデザインに込めた想いについて話を聞きました。

本当に分かりやすい子育て支援とは何か

元々は、大学の社会デザインに関する授業の一環で始まりました。そこで、当時の福津市の副市長・松田美幸さんとの対話を通して、市民にとって本当に分かりやすい子育て支援とは何かを考えるきっかけをもらいました。

当時の福津市は、子育てに関する窓口が複数の部署に分かれていて、市民が必要な情報へたどり着きにくい状況でした。

そこで、各部署や教育委員会などと一緒にワークシヨツプを実施し、どこでどのような支援が受けられるのかを一覧できるマップを制作するこ

とにしました。

市民の声を聞き、
子育て情報を可視化

福津市は、市民と行政の距離がとても近いまちだと感じています。そこから生まれたテーマが「市民に寄り添うデザイン」です。

制作に当たっては、保護者を対象に市民ワークショップを実施し、仕事と育児の両立や双子育児の苦労、日常の小さな悩みなど、さまざまな声を聞きました。

ワークシヨップを通して、保護者に関わる行政サービスを整理した「関係図」と、妊娠から小学校入学までの子育ての流れを時間軸で整理した「ジャーニーマップ」を作成し

あります。そこで、赤ちゃんのイラストではなく、クマのぬ

ました。

ぬいぐるみは、見る保護者の気持ちによつて表情や感情の受け取り方が変わり、性別も限定しません。多様な家庭や子育ての形に寄り添い、保

護者が共感しやすいデザインにしました。

また、妊娠期から小学校入学までの子育ての流れに合わせ、靴やランドセル、道具のイラストなどを使い、全体の雰囲気として子育ての期間を楽しく旅するようなデザインにしました。



▲どんな相談ができるのか分かりやすくなりました

ました。そうして、保護者が困りごとや不安を感じる場面、支援の重複や不足、十分に伝わっていない情報などを可視化しました。

また、市民ワークショップで「ちょっとした相談で電話をするのは心理的なハードルが高い」という意見が多かったので、ささいな相談の例も掲載しました。

保護者が共感しやすく
工夫したデザイン

一般的な子育てのガイドブックには、笑顔の赤ちゃんのイラストが主役として登場します。しかし、現実の子育てでは悩みやストレスに直面する場面もあり、保護者は現実とのギャップを感じることも

必要な人に必要な支援が届くように

こういった取り組みの背景には、インクルーシブデザインという考え方があります。

インクルーシブデザイン

は、当事者と一緒に課題を考え、解決策を作り上げていく

ことを重視する考え方です。単に使いやすいデザインを目指すのではなく「どんな困り指すのか」「どんな支援指すのか」「どんな支援助けるのか」を当事者と共有しながら形にしていいく点が特徴です。

今回の子育てサービスマツ
プも、市民の声を丁寧に取り
入れながら「必要な人に必要
な行政サービスが届く仕組
み」を目指して制作しました。

市民との「共創」で
過ぎしやすいまちへ

私は福岡市での「インクルーシブな子ども広場」の整備指針策定にも携わりました。そこで大切にしていただいた。そこで大切にしていただいたのも、障がいのある当事者の課題を勝手に想像するのではなく

九州大学 名誉教授

平井康之 Hirai Yasuyuki

— 市民の本当の想いを聴く —



▲子育てを時間軸で整理したジャーニーマップ

く、当事者の本当の想いに傾聴し、デザインすることでした。その結果、障がいの有無に関わらず、多様な子どもたちが楽しめる広場が実現できました。

福津市でも子育てサービスマップにとどまらず、市民との「共創」によって、市全体を誰もが過ごしやすいインクルーシブなまちにしていけたら良いと思っています。

▶インタビューの様子を動画でも公開しています



一人で抱え込まないで

子育てサービスマップには相談窓口を掲載しています。中でも、市こども家庭センターは、おおむね18歳までの全ての子どもと妊産婦、その家庭を対象とした総合相談窓口です。関係機関と連携しながら支援をつなぎます。

他にも、保護者や子どもが気軽にオンラインで相談できる方法や、父親のための電話相談窓口などもあります。子育て支援ガイドブックでは、詳しい相談窓口一覧を見ることができます。

大人も子どもも相談できます。一人で抱えず、小さな心配事でも専門機関に気軽に相談ください。



こども家庭センター窓口

子育て世代包括支援課

子育て世代包括支援係 ☎0940・34・3352

のびのび発達支援センター ☎0940・42・9119

保健指導係 ☎0940・34・3352

こども課

子育て支援係 ☎0940・43・8124

家庭児童相談係 ☎0940・39・3148

家庭児童相談室 ☎0940・43・8218

こどもの国推進係 ☎0940・43・8356

子育て支援センター「なかよし」 ☎0940・35・8382

児童センターフクスタ ☎0940・43・8356

親子のための相談LINE

子育てや家族関係の悩みなどを匿名で相談ができます。



パパのための子育て相談ダイヤル

男性の心理士などが相談に応じる、父親専用 ☎092・406・5118
の電話相談窓口です。

24時間対応

児童相談所 ☎189(いちはやく)
警察 ☎110



子育て中の夫婦に インタビュー！



Q.子育てサービスマップを
使ってみてどうでしたか？

相談できる連絡先や手続き
など、必要な情報が1枚にま
とまっていて良いと思いまし
た。母子手帳に挟んでずっと
使えるので便利です。

Q.子育てで大変なことは？

常に子どもと一緒にいるの
で、家事や、風呂に入ることも
一苦労です。

Q.子育てが大変なときは
どうしていますか？

家族に頼ったり、市の支援
制度を利用したりしています。
市こども家庭センターの前には
子どもが遊べる場所があっ

たり、市内には市児童セン
ターフクスタや子育て支援
センター「なかよし」などの施
設もあったりと、無料で利用
できる場所がこれほどあるこ
とに驚きました。便利な施設
や講座が多いので助かってい
ます。
同じく子育てをしている知
人も市役所によく相談に行く
ようで、手続き以外でも気軽
に行けるところが良いと思
います。

▶手を取り合って育児を
する岡本さん夫婦